



駐屯地夏まつり



三施太鼓による演舞



駐屯地吹奏楽部による音楽演奏



新隊員による盆踊り



警務隊による交通統制



打ち上げ花火



夏まつり会場

令和5年8月8日(火)、大久保駐屯地夏まつりを開催しました。前週からの台風6号の影響により開催内容の一部変更し、自治体及び各協力会等の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しました。台風も逸れ、当日は盆踊り、音楽演奏、三施太鼓の演舞、打ち上げ花火を実施しました。待ち望んでおられた多くの地域の皆様のご来場を頂き、最後の打ち上げ花火で盛況に終えることができました。これからも大久保駐屯地は、地域の皆様に信頼されるよう、励んで参ります。改めて、ご来場ありがとうございました。

来年も皆様のご来場を心よりお待ちしております。



令和5年度方面隊施設科合同訓練(渡河)



重浮橋の構築(第102施設器材隊)



軽浮橋の構築(第7施設群)



協力会と募集対象者に対する訓練公開



軽浮橋を通過(第7施設群)

大久保駐屯地に所在する第7施設群は、令和5年9月上旬から約1週間、大阪府柏原市及び藤井寺市を流れる大和川において、令和5年度方面隊施設科合同訓練(渡河)を担当、実施し、第102施設器材隊架橋中隊が同訓練に参加しました。第7施設群は、軽浮橋及び偽橋梁(デコイ)を、第102施設器材隊架橋中隊は、92式浮橋を架設しました。滋賀県の今津駐屯地に所在する第3偵察戦團大隊の16式機動戦闘車が92式浮橋を通過しました。

本訓練を活用して、大阪・京都・奈良地方協力本部のご協力を頂き、協力会や募集対象者からは「16式機動戦闘車が見学して頂き、協力会や募集対象者からは「16式機動戦闘車が見学して頂き、通過する姿に感動した。」「迫力があつた。」等の好意的な意見を多数頂きました。「迫力があつた。」等の好意的な意見を多数頂きました。引き続き、更なる練度向上を目指し、訓練等に励んで参ります。

第31回大久保駐屯地司令杯少年野球大会



宇治市少年野球連盟表彰



大久保駐屯地司令表彰



白熱した決勝戦

令和5年8月26日(土)から第31回大久保駐屯地司令杯少年野球大会を開催しました。約1カ月にわたり23チームによる白熱した試合が繰り広げられ、9月23日(土)の決勝戦では9対5で巨椋少年・久御山バツファローズ・西小倉野球連合が優勝、広野ジュニアーズが進優勝に輝きました。各チームの選手、宇治市少年野球連盟をはじめ大会関係者、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。



準優勝「広野ジュニアーズ」



優勝「巨椋少年・久御山バツファローズ・西小倉連合」



司令から選手にメダル贈呈

発行：大久保自衛隊協力会
陽融会
大久保駐屯地桃友会
45会
編集：第4施設団本部
第1科広報班
印刷：進見堂印刷

駐屯地司令要望事項
地域から信頼
される駐屯地

紙面紹介

- 1面
 - ・駐屯地夏まつり
 - ・令和5年度方面隊施設科合同訓練(渡河)
 - ・第31回大久保駐屯地司令杯少年野球大会
- 2面・3面
 - ・各部隊訓練等記事
- 4面
 - ・部隊長随筆
 - ・先任の一言
 - ・新隊員後期教育隊
 - ・在日外国大使館付武官団部隊研修
 - ・定年退官者紹介
 - ・優秀隊員表彰
 - ・編集後記

各 部 隊 訓 練 等 記 事



通過部隊支援（給油）



指揮所活動



車両による軽浮橋通過



軽浮橋の構築



子供の面倒見施設



初動部隊に対する補給品の交付



16式機動戦闘車による92式浮橋通過



協力会と募集対象者に対する訓練公開

第 7 施設 群

第7施設群は9月上旬、奈良県及び大阪府を流れ、大阪湾に注ぐ大和川において、30度を超える気温と、台風が近づき時折雨が降る中（令和5年度方面隊施設科合同訓練（渡河）を担任・実施し、実際の河川において橋梁を架設して、施設技術の向上を図りました。本訓練は、第4施設団のみならず、中部方面隊隷下の各師団の施設科部隊も参加し、被支援部隊を安全に渡河させるため、門橋・橋梁を『早く』架設し、本物を『隠して』、『偽物で』『騙す』こと、『早く』『隠す』『騙す』をテーマに実施しました。

具体的には、第102施設器材隊架橋中隊による92式浮橋の構築及び参加各部隊による門橋を接続して軽浮橋を素早く構築し、これらの本物を『騙す』ため、偽の橋梁（デコイ）を隊員の創意工夫により検証を兼ねて構築し、所望の成果を得ることが出来た。また、大阪府・京都府・奈良県から協力会や募集対象者をお招きし、43名の方々にご来場いただきました。92式浮橋を通過する第3偵察戦闘大隊の16式機動戦闘車は圧巻で、雨の中多くの方の注目を集めました。

大久保駐屯地業務隊

大久保駐屯地業務隊は、6月下旬から約1週間、令和5年度自衛隊統合防災演習において「通過部隊支援・駐屯地施設の在り方について」をテーマに各種検証を行いました。大久保駐屯地は停電、断水、断ガスの事態に見舞われる可能性があり、駐屯地及び演習場が被災した場合の施設等の点検要領や復旧要領について、隊独自の「点検マニュアル」を作成し、被災施設等を正確確実に点検復旧できる態勢を確立しました。

また、今回の通過部隊支援訓練では、第2師団、第6師団に対する給油支援を実施しました。経路は正門から西門への一方通行とし、給油所及び滑走路に臨時に開設した野外給油所に対応しましたが、タンクコンテナをリースできれば、野外給油所を開設せずとも、給油量が確保できると思料します。

大久保駐屯地は、被災地である太平洋沿岸地域とその後背地に所在し、自衛隊の災害派遣活動を支える支援拠点として極めて重要な役割を担っており、引き続き、部隊、隊員のために寄与していきます。

第 3 施設 大隊

第3施設大隊は、令和5年7月中旬から下旬の2日間をもって大隊武装走競技会及び大隊射撃競技会を実施しました。大隊武装走競技会では7名1グループとし、各中隊から編成された3個グループ走及び個人走の平均得点により競い合い、全隊員が中隊の優勝を目指し、一丸となって全力で走りました。

グループ走では土囊運搬、超壕、囲壁、手りゅう弾投擲及び担架搬送の5つの障害が設けられ、各グループは力を合わせて障害を突破しました。結果は第1中隊が練成の成果を存分に発揮し優勝を果たしました。大隊射撃競技会では当日に各中隊から抽選で選抜された基本射撃24名、至近距離射撃10名の計34名の選手が代表者となり射撃を行いました。結果は代表選手たちの見事な射撃技術により第2中隊が優勝を果たしました。本競技会を通じて大隊の士気の高揚・団結の強化及び隊員の体力・戦闘戦技能力向上を図ることが出来ました。また、12月に実施される師団武装走競技会の優勝に向けて、引き続き練成していきたいと思います。

第104施設直接支援大隊

第104施設直接支援大隊は、7月下旬から約5日間、令和5年度自衛官招集訓練を担任し、第2直接支援中隊を訓練担任部隊として、大久保駐屯地及び長池演習場において訓練を実施しました。

本訓練は、予備自衛官として必要な知識及び技能の復習等を行い、練度を維持・向上させることともに、予備自衛官としての資質を養うことを目的として実施し、訓練実施間、気温が37度にも到達するほどの猛暑であったものの、降雨に見舞われることなく、計画通り円滑に訓練を実施することができました。

課目は大隊長による精神教育のほか、体力検定や射撃検定、救急法等を実施し、予備自衛官として必要な体力や技能を維持・向上させました。また、一件の事故や病気・怪我もなく訓練を終えることができ、日頃からの安全管理及び健康管理意識の高さを確認することができました。

特に、熱中症対策を万全の状態にして訓練を実施したことで、訓練効果を最大限に得ることができました。引き続き、各種訓練を通じて隊員の練度向上に努めるとともに、有事に即応し任務を完遂できるように日々精進致します。



体力検定



基本教練（敬礼）



担架搬送



土囊運搬



格闘訓練



射撃予習



射撃



弾薬交付

第307 ダンプ車両中隊



車両操縦訓練



経路教育

第307ダンプ車両中隊は、今後も訓練及び警備時間を活用した車両操縦訓練を実施して、ダンプ車両専門中隊としての誇りと自信を胸に安全確実な運転に努めるとともに、如何なる状況下においても的確な判断・操縦ができるよう、隊員個々の車両操縦能力の向上を図っていきます。

第307ダンプ車両中隊は、令和5年8月上旬の4日間、令和5年度第5回小隊長等計画訓練において今年7月に新規免許を取得した隊員3名を対象とした長距離操縦訓練を実施しました。

大久保駐屯地を発着点に、京丹波町、福井県高浜町、滋賀県大津市を経由した一般道の経路（一周約250km）において訓練を実施し、普段の車両操縦訓練とはまた一味違った雰囲気に出発当初は緊張に満ちた表情でしたが、各車長の助言・指揮によって、徐々に表情、操縦共に自信が表れていました。

3名の新米ドライバー達は事故なく延べ約1600kmの長距離を走破し、実りある訓練となりました。

第4 施設 団 本 部 付 隊



河川にて地耐力を計測



奈良県防災担当職員との調整

第4施設団本部付隊は、令和5年8月下旬の2日間、付隊本部班・偵察班・通信班の合同訓練を実施しました。

訓練の内容は、和歌山県沖にて震度7強の地震が発生し、早朝の非常警報から緊急登庁、応急出動準備と様々な状況付与の中で、大久保駐屯地と奈良県庁との連携及び確実な通信手段の確保を重視し、各班長を核心に、隊員たちは積極的に掌握下に入り、班が一丸となり、必要とする資料を迅速に車両へと積載後、奈良県庁及び無線中継点へ前進し、駐屯地と奈良県防災会議室との無線通信を実施し、任務を完遂しました。

また、通信班と偵察班の一部をもって通信構成と被害状況の情報処理を連携して実施するとともに、偵察班は、大阪府を流れる大和川において橋梁架設のための河川偵察を偵察ボートを使用して河川の流速・水深等の計測や地耐力の計測を行い、偵察能力の向上を図りました。

本訓練を通じ、各種事態に即応する練度の向上を図ることができました。

今後あらゆる事態に対応できるように励んで参ります。

第318 基地通信中隊大久保派遣隊



通信所能力評価



初度視察（記念撮影）

第318基地通信中隊大久保派遣隊は、第104基地システム通信大隊長の初度視察を受けました。

新大隊長に対する隊員の自己紹介から派遣隊の状況報告、巡視による現状を把握して頂き、派遣隊の任務遂行能力の確認を受けて頂きました。

昼食は糧食班の支援を受け、大隊長を囲んでの和やかな会食となりました。

また、通信所能力評価を受検しました。階級や主業務を問わず全隊員が個人の通信能力の練度確認で実施するIP電話機・各種システム設定、通信回線の構成、派遣隊全力で行うシステム通信の構成を確認され、いかなる状況にも迅速・正確に対応しうる能力を有しているかを評価されました。

派遣隊は、基地システム通信基盤がいかなる状況でも当たり前で使用できる通信環境を維持し、駐屯地所在部隊のニーズに迅速・的確に対応できるように更なる技術の向上のためComptIA Network+の通信資格を今年度取得を目標とし、隊員個人の能力を向上し、部隊としての任務遂行能力を向上できるように精進して参ります。

第102 施設 器材 隊



パネル橋MG Bを通過



重門橋の運航

第102施設器材隊は、令和5年7月下旬から約1週間、大久保駐屯地及び日本原演習場（岡山県）において架橋中隊及び本部付隊通信班の訓練検閲を実施し、これまでの訓練成果を評価しました。

架橋中隊は、駐屯地内の池を河川に見立て、作戦部隊の河川通過を支援する想定で、重門橋（フェリー）を構築・運航して車両を対岸へ輸送し、引き続き92式浮橋を架設して、部隊の通過を容易にしました。

その後、日本原演習場に転進し、暗夜の中で谷地にパネル橋MG Bを構築して、部隊の前進経路を確保しました。

この間、通信班は、日本原演習場への移動経路上に無線中継所を開設し、移動間の通信手段を確保しました。

また、日本原演習場進出後も通信所を開設し、器材隊本部と架橋中隊間の有線、無線及びシステム通信網を構成して、器材隊長の部隊指揮を容易にしました。

架橋中隊と通信班は、共に日頃の訓練成果を遺憾なく発揮して任務を達成し、今後の訓練の資を得ました。

第397 会 計 隊



心理的安全性に関する討議



心理的安全性に関する討議

第397会計隊は、令和5年から心理的安全性の確保を重視した取り組みを実施しています。

心理的安全性とは近年Google等企业組織で注目されている概念の1つで、組織・チームの中で対人リスクを恐れずに気兼ねなく発言できる、話し合える状態のことを言います。

心理的安全性の効果として、「業績向上に寄与する」「情報・知識が共有されやすくなる」「チーム学習が促進される」「離職率が低くバウハラが起りにくい」等の成果が報告されています。

心理的安全性を確保するために、全員での討議の場を月2回設定しています。討議を活発に行うことができるように、全員が発言し易く工夫したり、リラックスして討議ができるように場の設定を工夫したりと、創意工夫を凝らしながら心理的安全性の確保に努めています。

信頼され、健全で生産性の高い組織となり、部隊のニーズに最大限寄与できるように、また駐屯地の会計支援をさらに高めていけるように精進していく所存です。

第3 後 方 支 援 連 隊 第1 整備 大隊 施設 整備 隊



会計隊と合同での格闘練成



格闘練成

第3後方支援連隊第1整備大隊施設整備隊は今年7月に第1回格闘検定を行いました。

検定は昨年度と違い、第2級検定の第1課題、第2課題を行いました。

昨年度同様に第397会計隊と合同で練成し、前月から毎朝コッコツと格闘練成を実施しました。

練成においては、格闘指導官の指導の下、準備運動・補強運動から始めて、突きや蹴り、受け身、執銃動作等の基本はもとより、制止・拘束など実践的・実的な格闘技術の練成に励んできました。

また、朝方は涼しいとはいえ熱中症の危険性があるため常に安全に心掛け、練成しました。

格闘は日頃使わない筋肉を使う為、体が辛い日々が続きましたが、整理運動やストレッチを十分に行い体をケアしながら検定に臨みました。

昨年度より難易度が上がったため、数名の隊員は合格となりませんでした。次の検定に向けて志を高く日々の練成に励んでいます。

格闘技術は一朝一夕では身につくものではないため、部隊一丸となってこれからも精進していきます。

部隊長随筆 先任の一言



第102施設器材隊隊長 2等陸佐 櫻井 政友

「教育訓練の意義」

宇宙・サイバー・電磁波といった領域横断の作戦など、将来起こり得る事態の実相を見定めることが難しいなか、今行っている教育訓練が正しいか、必要か、悩むこともあります。

特に施設器材隊は、浮橋や建設など方面隊で唯一の機能を持つ専門性の高い部隊であり、その特有の能力が任務で必ず活かされるには限りません。

しかしながら、我々があるべき姿を模索し、試行錯誤しながら教育訓練に邁進して、その能力を発揮できる練度を維持し続ける、そのこと自体に、既に大きな価値があると思います。

私はこれまでの職務で各国の軍隊と接してきましたが、陸上自衛隊は厳しい教育訓練を真摯に計画・実行し、他国に引けを取らない練度を維持し、その精強性に高い評価を得ています。

こうした姿を誇示し、他国に認識させることは「自衛隊は手強い」との印象を与え、我が国の抑止力に直結しています。また、共に行動・協力する同盟国や同志国、そして日本国民も、我々が「信頼に足る存在」であるかを見定めています。

今後も教育訓練に愚直に取り組みつ、積極的に情報発信して、世界に実力を「認知させる」ことを教育訓練の意義の一つとして、部隊の精強化に努めていく所存です。



大久保駐屯地業務隊准陸尉 西村 敦

「メンタルヘルス」

一般的に春から初夏にかけては、「五月病」の言葉があるように、仕事や家庭の悩みから、うつ状態・うつ病に陥る隊員が多くなる時期でもあります。

部隊などにおいて、隊員がうつ状態・うつ病に陥ることは、隊員自身の自殺の可能性を高めるとともに、回復のため、隊員や隊員家族、同僚隊員などの多大な努力が必要となり、部隊などの大きな戦力の損失になります。

隊員をうつ状態に陥らせないために心身(身上)把握を行う一方で、早く疲労を回復するため休暇を中心とした勤務管理を適切に行うことも必要です。

次に復職支援ですが、相当の疲労を蓄積してうつ状態に至っていますので、投薬治療を受ければ一般的に不安感や睡眠障害が取り除かれ、隊員の症状は改善されますが本来回復には非常に時間がかかることを認識する必要があります。

この疲労から回復しようとする期間には、多くのエネルギーを使用することから、すぐに疲労を蓄積しやすく、うつ状態に逆もどりしやすい危険な期間でもあります。

復職支援は、周囲の理解や支援が必要であり、復職への判断も難しいことから、メンタルサポートセンターを試行するとともに、方面隊や駐屯地相談窓口、先任上級曹長など、自身も隊員のメンタルヘルスに悩んだときは、上級部隊などに相談しましょう。

新隊員後期教育隊

第7施設群教育隊(新隊員102名)及び第3施設大隊教育隊(新隊員26名)は、令和5年7月上旬から約3カ月間、4月に入隊した新隊員に対して後期教育を実施しました。新隊員は連日続く猛暑に負けず、施設科隊員としての基礎知識及び技能を学ぶとともに、同期の絆を深め、切磋琢磨しながら修了式を迎えました。

第7施設群後期教育隊



軽門橋の構築 模擬地雷埋設 重材料運搬

第3施設大隊後期教育隊



漕舟 土工 植杭

在日外国大使館付武官団部隊研修

令和5年9月中旬、陸上幕僚監部が主催する令和5年度武官団部隊研修を大久保駐屯地において支援しました。当日は約30カ国の駐在武官34名が駐屯地を訪れ、武官団長の駐屯地司令表敬、駐屯地司令によるブリーフィング、第102施設器材隊による架橋器材を使った訓練展示、装備品展示、建設事業の見学などを行い、参加武官からは「戦闘能力だけでなく人道支援・災害派遣能力についても大変興味深い研修となった。」といった声が聞かれました。



92式浮橋による訓練展示



武官団との記念撮影

定年退官者紹介



大久保駐屯地業務隊総務科

准陸尉 渡邊 泰生

退官 令和5年7月23日



第3施設大隊本部管理中隊

1等陸曹 入江 哲生

退官 令和5年9月3日



第3施設大隊本部管理中隊

准陸尉 豊山 和彦

退官 令和5年9月6日



第3施設大隊本部管理中隊

陸曹長 太田 昭秀

退官 令和5年9月28日

優秀隊員褒章

令和5年7月30日(日)、航空自衛隊奈良基地において「ならスポーツフェスティバル第74回県民体育大会」が実施され、銃剣道の部に参加した第381施設中隊 小西 達也2曹が、優勝の成績を収めました。また、令和5年8月3日(木)、日本武道館において「第54回全日本青年銃剣道大会」が実施され、女子個人の部に参加した本部管理中隊 木村 茉鈴3曹が準優勝の成績を収めました。

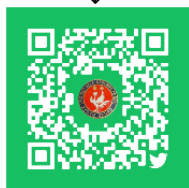


第7施設群第381施設中隊 2等陸曹 小西 達也



第7施設群本部管理中隊 3等陸曹 木村 茉鈴

大久保駐屯地 Twitter QRコード



編集後記

大久保駐屯地広報紙「やましろ」の愛読の皆様、いつもありがとうございます。

今年も駐屯地夏まつりを開催し、皆様とお会いすることができ、大変嬉しく感じました。

来年も各種行事を開催する予定となっております。是非、大久保駐屯地へお越しください。

最後になりますが、引き続き、大久保駐屯地広報紙「やましろ」に対し、ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。